

## 魚津市沿岸で確認されたハタハタの卵塊

稲村 修・伊串祐紀（魚津水族館）

ハタハタ *Arctoscopus japonicus* はハタハタ科に分類され、日本では山陰以北の日本海側、東北以北の太平洋側の水深 450m 以浅の大陸棚付近に生息し、冬場になると水深 5 m 前後の藻場に来遊して産卵する（真木・寺島・中村, 1997）。卵塊はブリコと呼ばれ有名である。

富山県沿岸では、本種の産卵記録はなく、今回初めて魚津市沿岸において卵塊を多数確認したので報告する。

ハタハタ科 Trichodontidae  
ハタハタ

*Arctoscopus japonicus*(Steindachner)



図1 ハタハタの成魚

翌日、魚津補助港から西へ約 1 km の海岸（魚津市三ヶ）でも多数の卵塊（図 2）が発見され、広い範囲で産卵していた可能性が示唆された。

産みつけられていた数塊を展示と標本の目的で採集し、水温 7℃、15℃ の水槽に搬入した。展示は 2009 年 1 月 22 日より水温 15℃ の水槽で行った（図 3）が 2 月 25 日に卵が白濁したので展示を終了した。水温 7℃ の水槽では順調に発生が進み孵化したが、育成には至らなかった。

卵塊と孵化仔魚の一部はホルマリン標本として当館で保存している。



図2 産みつけられた卵塊



図3 展示の様子

採集年月日：2009 年 1 月 9 日

採集地：魚津市三ヶの海岸

水深：1.5m 前後

水温：12℃

卵塊の大きさ：4～6 cm

卵径（長径）：0.35～0.4 cm

### 引用文献

真木長彰，寺島裕晃，中村啓美．1997．第 2 部 解説，安部宗明 監修．現代おさかな事典日本産魚類大図鑑．544．

2009 年 1 月 8 日、魚津補助港の堤防周辺の海藻にハタハタの卵が産みつけられているという釣り人からの連絡を受け、堤防上から海藻に産みつけられた卵塊を確認した。